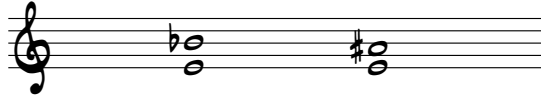


インターバル Intervals (音程)

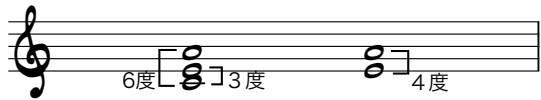
インターバルとは2つの音の隔たりを表したものである。

An Intervals is the measurement of the distance in the pitch between two notes.

1. 音程という言葉は時に音高、ピッチの意味で使われることもあるため、ここではインターバルを使う。
2. ここでいうインターバルとは、楽譜上（理論上）でのことである。
次の2つのインターバルの譜面上の表現は異なるが、楽器上や実際の音は同じである。



3. インターバルは、譜面上の2つの音符の隔たりを表す数字（度数）とその前に付ける文字で表す。
文字は実際の隔たりを表すために付ける。
4. 度数は「0」の概念が発明される前に生まれたため、0度は存在せず、譜面上の同じ位置にある2つの音のインターバルは1度となる。他のインターバルの度数も全て実際の隔たりに1をプラスした数字となる。



(例)

6度 (ラ) - 3度 (ミ) = 4度 (6-3+1)

5. ここでは前に付ける文字は、コード名との関連が理解しやすいように英語名とその略記号を使う。

Perfect , P (完全) Major , M (長) minor , m , - (短)
diminished , o (減) Augmented , + (増)
doubly diminished , do (重減) doubly Augmented , d+ (重増)

インターバルを求めるステップ

1. 先ず、度数を数える。
(1) 譜面上の2つの音とその間に入れることができる音符の数を数える。間の音は、同じ五線または五間がないこと。



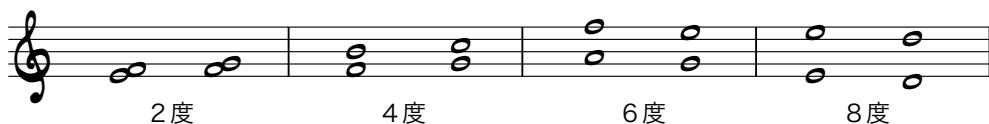
- (2) 上の4. の方法

- (3) 次の方法で直感的に知ることができる。

五線紙の線上にある音同士、または線間の音同士のインターバルは、奇数度（1度、3度、5度、7度など）。



五線紙の線上にある音と線間にある音のインターバルは、偶数度（2度、4度、6度、8度など）。



3. ダイアトニック・インターバルを基準として移動ドで認識する方法。



これはKey（スケールやコードも同じ）が Eb の場合の Mi と Do と同じなので、インターバルは m6

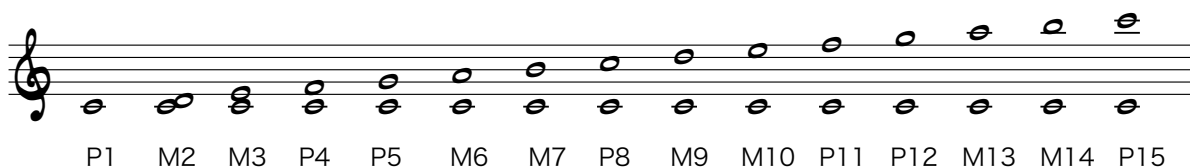
更に、key of BbであればLaとFaで m6など、ダイアトニック・インターバルが分かっているならば、それを元に間が広がっているか狭まっているかを考えて、即座に読むことが出来る。

これは上級の思考法といえるが、移動ドで常にインターバルを考えながら音楽をしていれば自然に身につく。また、そのことによって音楽理論との関係もはっきり見えてくる。

ダイアトニック・インターバルについては「ジャズ・ソルフェージュ」に度数毎に詳しく載っている。「ジャズ・ソルフェージュ」で、実際にインターバルを感じながら歌うことは音感を養うためにも効果的。

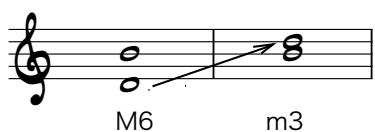


オクターブ以上の大きなインターバル



1 オクターブ以上のインターバルはCompound interval（複合音程）と呼ばれる。
 (例：Major 10th = Compound Major 3rd)

インターバルの転回 Inversion of intervals



2音の距離が離れているときは、計算によって簡単にIntervalを知ることができる。

1. 低い方の音をOctave上げ（又はその反対）そのIntervalを求める。
2. 9からIntervalの数字を引くが、その場合
 minorはMajorに、 Majorはminorに、
 DiminishedはAugmentedに、 AugmentedはDiminishedに変える。
 Perfectはそのまま

トライトーン Tritone（3全音）

+4（または o5）のインターバルは特にトライトーンと呼ばれる。
 これは3全音分のインターバルで丁度1オクターブ（12半音 or 6全音）を2分する。
 スケールではFaとTi, TiとFa間のインターバル。ドミナント・コードの3度と7度間のインターバル。

